

“

第2回講座 令和2年11月18日(水) 午後3時～午後4時30分

## 効果的なチーム・ティーチングの在り方

明海大学 多言語コミュニケーションセンター

教授 Patrizia Hayashi

明海大学 多言語コミュニケーションセンター

准教授 Tyson Rode

明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター

教授 百瀬 美帆

”

### 【講座内容の書き起こし】

高野先生：

皆さん、こんにちは。明海大学副学長外国語学部長、そして本事業の責任者である高野です。ただいまより、第2回の講座を開始させていただきたいと思います。前回10月20日、上智大学 藤田保教授の学習指導要領に関する第1回講座に続きまして、本日は2回目です。本日は「効果的なチーム・ティーチングの在り方について」です。

我が国の英語教育は、昭和62年度から開始されました、外国青年招致事業、いわゆる JET プログラムにより、大きな変化をもたらされました。それまでは英語の授業は、日本人の英語の先生が1人で行っていたのですが、これを機会として英語の授業はコミュニケーションを重視しなければならないという考えのもと、ALTと呼ばれる外国人と一緒に授業を行うといった、新しいチーム・ティーチング、こういった手法が日本全国の学校で繰り返し広げられました。現在では多くの自治体でこの制度のほか、独自にALTを指導者として英語の授業で活用する取り組みがなされているところでございます。

特に小学校では、平成12年度からの総合的な学習の時間、そして平成23年度から始まった、小学校5、6年の年間35単位時間の外国語活動の必修化に伴いまして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標として、さまざまな活動を行うため、ALTが活躍をしているところです。

こうした中、今年度から小学校では、3、4年の外国語活動、そして5、6年の教科としての英語の授業が実施されているところです。しかしながら、受講者の皆さんも日々ご苦勞されていると思いますが、課題も大きいのがこのチーム・ティーチングです。

そこで本日の講座内容は、チーム・ティーチングにおける学級担任の役割、ALTの役割について理解できる内容となっていて、具体的にはALTとの親和関係の構築方法や、有用表現を紹介したのちに、授業前の打ち合わせに必要なALTのやり取り、あるいは授業中におけるALTとのやり取りを受講者同士、またはALT役講師と練習するものとなっています。

なお、講座前のタスクといたしまして、受講者の皆さんには、学級担任の役割、ALTの役割や、授業におけるラポール構築実践例のビデオを視聴していただいているとともに、事前に送付されましたワークシートなどで研修を積んでいるかと思いますが、本日はそれらを踏まえまして、効果的なチーム・ティーチングの在り方について学んでいきたいと思っております。

次に、講師の紹介でございます。

パトリツィア・ハヤシ教授は、カリフォルニア大学パークレー校にて修士号を取られまして、主な専門分野はマーケティングと英語指導法です。本学においても話す力、プレゼンテーション能力の向上等で日々活躍されているところであります。

続きまして、タイソン・ロード准教授は、テンプル大学にて修士号を取られ、主な専門分野は教育学英語教授法、プレゼンテーション能力の向上、さらにはディベートスキルの習得などを専門とされています。

最後に、百瀬美帆教授は青山学院大学をご卒業されたのち、千葉県の高등학교の先生になられました。主な専門分野は、特にコミュニケーション活動を中心としたオールイングリッシュによる英語指導法の研究、あるいは4技能統合型の実践方法、指導と評価を一体化させた授業実践、パフォーマンステスト等々です。先生は、千葉女子高校の時代に、Super English Language High schoolで研究をリードされるとともに、長年、千葉県の高등학교初任者研修で、英語の指導助言にあたられておりました。平成25年、26年に国が主催しました、外国語指導助手の来日直後研修においてALTに対して学習指導要領に基づいたオールイングリッシュ授業におけるチーム・ティーチングのモデルなどを示してございます。また平成26年には、NHKで「おはよう日本 変わる英語の授業」に出演されております。執筆等につきましては、さまざまな辞書、あるいは文部省検定本等も執筆をされるとともに、英検の情報誌である『英語情報』に「指導と評価の一体化」をテーマとした連載記事を掲載しています。また、東京都、静岡県、新潟県など多数の県や英検で指導法の講師を務めるとともに、昨年度と今年度においては、単発的ではありますが、NHKラジオ第二放送で「英語で基礎英語」などの番組にも出演した経験をおもちでございます。

特に本日の3人の講師の先生方は、本学と連携協定を結んでおります東京都足立区との事業で、区民のための英会話講座などを3年前から実施しており、区民の皆様方から高く評価をいただいている所でございます。また、足立区の小学校の生徒のために、本学で実施をしております大学あけみ英語村事業におきましては、小学生に楽しく学ぶコミュニケーション活動を精力的に行っているところでございます。

それでは本日よろしく申し上げます。

百瀬先生：

皆さん、こんにちは。百瀬美帆です。私は大学教職課程センターで、中・高の英語教員を育成する仕事をしておりますが、近年では小学校で英語を教えたいという学生も増えてきましたので、今日は小学校の先生方とこうしてお目にかかれて大変うれしく思います。また、先ほど紹介にありましたように、ALTさんとのチーム・ティーチングも長年行ってきましたので、その経験を活かして今日は活動などをしていきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

パトリツィア・ハヤシ先生：

皆さん、こんにちは。パトリツィア・ハヤシです。明海大学の多言語コミュニケーションセンターのコーディネーターです。浦安市の皆さんは、3人の息子が入船北小学校の卒業生でお世話になりました。これからよろしく申し上げます。足立区の皆様、こんにちは。このようにまた交流ができて楽しいです。来週、私とタイソンはあけみ英語村をします。とてもわくわくしています。よろしく申し上げます。横手の皆さん、こんにちは。今日は初めてですが、これが最初と最後ではなくて、今日からよいラポール(親和関係)を築いていけたらと思っています。よろしく申し上げます。

タイソン・ロード先生：

ハロー、はじめまして。タイソン・ロードです。今日私たちは素晴らしいワークショップをします。私は9年間埼玉県さいたま市でALTをしていました。今日皆さんとワークショップするのを楽しみにしています。皆さん、やればできます。私たちはできます。

全員：

1、2...Let's go for it!

百瀬先生：

それではまず、第2回講座の目的をお話しいたします。効果的なチーム・ティーチングの在り方とは何でしょうか？ そ

もそも、チーム・ティーチングを行う意味とは何でしょうか？ もちろん、英語母語話者であるALTの方、あるいは英語が堪能であるT2の方、そういった方をお迎えして、英語の知識や技能を教えていただく、そういった面もありますが、それよりも何よりも大切なのは、複数の先生が児童の前に立ち、本物のコミュニケーションを取るということです。その時に、違う文化背景からいらしたALTとのコミュニケーションを図る、日本人の先生がそこで苦手な英語でも一生懸命使ってみせる。その姿を児童たちに見せることが、コミュニケーションを図る人としてのロールモデルとなります。先生方がコミュニケーションを楽しんでいらっしゃる姿を見せること、その本物の場面を見せること、それがチーム・ティーチングの一番の目的だと思っています。

そのためには、ALTと担任の先生方との間の信頼関係、親和関係「ラポール」を構築することが大切です。本日は、そのラポール構築のための表現や、さまざまなコツ、そういったものを活動を通して、皆さんにご紹介をしていきたいと思っています。

それでは皆さん、これから一緒に活動していきます。今、ご紹介しているスライドは、すでに事前学習、事前課題の中でお示ししているものになりますが、簡単に振り返らせてください。まず、学級担任の先生とALTの先生の役割を確認します。英語の授業であっても、主導権は学級担任の先生が持たれる、イニシアチブを持たれるということは当然のことです。ラポールの構築には、平等な人間関係が大切ですが、それでも普段から学級経営をなさっている担任の先生が授業の主導をなさってください。そして、ALTには効果的な援助を求めてください。

復習をします。授業の主導権とクラスの掌握、これを持たれるのはどなたでしょうか？ もちろん、学級担任の先生ですね。そして次に、レッスンプランの作成はどなたがしますか？ レッスンプランの作成は、少し難しい感じがしますが、もちろん学習指導要領、年間指導計画、単元計画に基づいて指導案を書く必要がありますから、これはまず、学級担任の先生が作成をされて、その間にALTの協力を求めることが大切です。協力を求める方法は、本日ビデオなどでご提示いたします。

次に文化を紹介する大使としての役割、これはもちろんALTの役割です。近年では、さまざまな国々から、さまざまな文化背景を持ったALTさんがいらしています。ですから、そのALTさんの背景文化をよく知るためにも、ラポール構築は非常に大切なことです。ALTさんのもつ背景文化を、児童の前で引き出してあげること。そして児童と共有して楽しむこと。それがチーム・ティーチングの1つの目的にもなります。

そして、先生方が協力して授業を盛り上げていらっしゃる、あるいは学級担任の先生が苦しみながらも、時には、そして楽しんでいる様子を見せること、それが生徒のやる気を引き出します。すなわち、生徒のやる気を引き出すのは、担任の先生とALTの先生との共同作業ということになります。

最後に、さまざまなアイデアを提供するのはどちらでしょうか？ これは、違った視点を持たれる、違った文化背景を持たれるALTの先生方にその協力を仰ぎましょう。私たちが気付かないような視点で、授業にアドバイスを求めてくれたりすることがあります。

さて、ラポール構築のための作戦を立てましょう。ラポール構築大作戦です。この3つの作戦をもって、ラポールの構築にあたってみましょう。

#### 作戦その1

相手に興味をもちましょう：ALTさんに興味をもってあげましょう。すなわち、対等な相手として扱ってあげましょう、ということになります。興味を示す方法は、積極的な聞き手になるというテクニックがあります。それは、「アクティブ・リスニング」という方法です。この具体的な方法は、事前課題のユニット2あるいはユニット3の中にも表現集がありますので、後から確認することもできます。

#### 作戦その2

相手を認めましょう！：相手を対等な人間として認めてあげてことを示すために、歓迎の挨拶は大事です。朝は先生方にとっても非常に忙しい時間帯であるということは、十分承知しておりますが、ALTにとっても、朝は非常に不安な

時間帯になります。朝、ALTにGood morning! と声をかける、あるいは日本語でも構いません。「おはようございます」と声をかけてあげることで、その日1日安心して仕事ができるようになります。そして仕事の終わり、つまり授業の始まりと授業の終わり、そして勤務が終わって帰るときにThank you.の一言をかけてあげる。「ありがとうございました」という日本語でも構いません。先生方の気持ちを伝えてください。

作戦その2はまだ続きます。ALTの資質を認めましょう:ALTは英語話者、あるいは普段からの使用者ですから、たくさん表現や言い方などを知っています。遠慮なく助けてもらいましょう。日本人の先生方が、ALTに助けを求めることは、少しも恥ずかしい事ではありません。そうすることで、ALTを授業の仲間として、授業に引き込むことができます。

### 作戦その3

互いの資質を生かしましょう!:クラスを掌握しているクラスの先生は、英語が母語話者であるALTのその資質を生かし、レッスンプランを会話の道具として使ってください。レッスンプランをどのように道具として使うのかは、今日の実践の中でお見せします。

それでは、このラポール構築大作戦を実際に行ってみましょう。それでは、モデルレッスンに移ります。

パトリツィア・ハヤシ先生:次に、2つのラポール構築モデルをお見せします。どちらがよろしいでしょうか。ご覧ください。

=====

#### ◆ラポール構築のデモンストレーション[悪いモデル例]

タイソン・ロード先生:Hello.

百瀬先生:Hello.

タイソン・ロード先生:Nice to meet you.

百瀬先生:Nice to meet you. I'm Momose.

タイソン・ロード先生:Are you Momose?

百瀬先生:Yes, Momose.

タイソン・ロード先生:May I call you Momose?

百瀬先生:Momose – sensei.

タイソン・ロード先生:Momose-sensei, I'm sorry. Momose is your family name.

百瀬先生:Yes, family name.

タイソン・ロード先生:OK. My name is Tyson Rode, call me Tyson.

百瀬先生:Tyson. Tyson, where are you from?

タイソン・ロード先生:I'm from Canada.

百瀬先生:Canada. Why are you in Japan?

タイソン・ロード先生:Why am I in Japan... I like Japanese culture.

百瀬先生:Japanese culture. What culture?

タイソン・ロード先生:I like Judo. I have a black belt in Judo.

百瀬先生:Oh, Judo? That's why you are big!

タイソン・ロード先生:Yeah, one reason, I'm big.

百瀬先生:Why don't you try Sumo?

タイソン・ロード先生:Sumo... I like to watch Sumo, but I like to do Judo.

百瀬先生:I see. Then, this is the ..., ur... today's lesson plan.

タイソン・ロード先生:OK, thank you very much.

百瀬先生：Yes. I have my lesson plan. I'm busy, so please read it.

タイソン・ロード先生：OK, I will.

百瀬先生：My class, after lunch, come.

タイソン・ロード先生：OK, after lunch, I should go. OK.

百瀬先生：Then, read and come.

タイソン・ロード先生：OK, I see. I'll read the plan and come, OK.

百瀬先生：Bye.

タイソン・ロード先生：Bye.

◆ラポール構築のデモンストレーション[よいモデル例]

タイソン・ロード先生：Hello.

百瀬先生：Hello. My name is Miho Momose. Please call me Miho.

タイソン・ロード先生：Miho, OK.

百瀬先生：But, you and me, Miho. With students, please call me Momose-sensei.

タイソン・ロード先生：I see, so with students in the class, call you Momose-sensei. But, together call you Miho.

百瀬先生：Yes, friends.

タイソン・ロード先生：OK, my name is Tyson Rode, but together call me Tyson, please. But in front of students,  
Tyson is OK. I don't like Mr. Rode for me, please call me Tyson, it's OK.

百瀬先生：OK. But, Tyson-sensei is OK?

タイソン・ロード先生：That's nice, thank you.

百瀬先生：OK, Tyson-sensei.

タイソン・ロード先生：Momose-sensei.

百瀬先生：OK. Then Tyson, where are you from?

タイソン・ロード先生：I'm from Canada, originally. But I've been in Japan long time.

百瀬先生：One more time, please.

タイソン・ロード先生：Yes. I'm from Canada. But I have stayed in Japan long time.

百瀬先生：Long time. I see.

タイソン・ロード先生：I love Japan.

百瀬先生：Oh, you love Japan.

タイソン・ロード先生：Yes.

百瀬先生：I see. Tyson sensei, I'm busy I'm sorry. Let's talk about today's plan.

タイソン・ロード先生：OK.

百瀬先生：Please read the plan, and our class after lunch, then if you have questions, please ask me.

タイソン・ロード先生：OK, I've got it. So, read the plan first, and if I have a question and ask you.

百瀬先生：Yes, please.

タイソン・ロード先生：OK, I've got it.

百瀬先生：OK. See you later.

タイソン・ロード先生：Yeah, see you later.

=====

百瀬先生：

今、2つの例をお示しましたが、どちらの例がよかったかは、もう一目瞭然、タイソン先生の顔からもわかりましたよね。2つの例の際立って異なるところをお示します。

初めに、名前の名乗り方です。私たち日本人の名前は、最近でこそ Momose Miho と名字の方から名乗るようになりましたが、Miho Momose という名乗り方もありますので、ALT 中にはどちらがファミリーネーム(姓)で、どちらがファーストネーム(名)なのかわからない場合もあります。ですから、どのように呼んでほしいのかは、先生方が ALT に伝えてください。生徒の前では、「何々先生」、二人の時や職員だけの時には、「ミホ」というファーストネームでもいいですよ、ということもよいのではないのでしょうか。

それから次に、これは間違えやすい質問です。Why are you in Japan? 「なんで日本にいるの?」という気持ちになりますね。How did you feel?

タイソン・ロード先生：

Why are you in Japan is very direct. Another way, you can say, what brought you to Japan? It's more ... It makes ALTs feel better.

百瀬先生：

What brought you to Japan? という言い方がよいようですね。そしてタイソン先生が柔道に興味があると行った時に、だから大きいんですね、You are big ! ついでに、相撲のことまで言ってしまいました。どうですか、タイソン先生。

タイソン・ロード先生：

Yeah, I'm a big guy, but I like judo. I felt a little uncomfortable.

百瀬先生：

私たちはつい、背が高くてうらやましいわ、You are so tall. などと言ってしまうこともあります。外見に触れる話題はくれぐれも避けましょう。そして最後に、一番大事なところ。レッスンプランを示した時に、Read it, come to my class. と命令してしまいましたね。Please をつけ忘れてしまいました。たった一言、「Please」をつけるだけで、随分印象が変わります。Please 無しの Read it. はどんな感じですか?

タイソン・ロード先生：

Yes, ma'am! I felt a little bit strict. Maybe in the army. Please is the magic word. Please make everything soft.

百瀬先生：

これでは、軍隊にいるような感じを受けてしまうそうです。Please という一言がマジックワードです。皆さん、気をつけてくださいね。

それではこれから皆さんに練習をしていただきます。各会場でペアを組んでいただき、ALT 役と学級担任役を決めてください。皆さんのお手元には、今日のアクティビティシートが配られているはず。4つの場面が示されていますので、本来なら4場面練習していただきたいところですが、横手の方々には1の場面を、皿沼小の方々には2の場面を、亀田小の方々には3の場面を、浦安市の皆さんには4の場面を練習してください。皆さん方の練習の後で、タイソン先生、パトリツィア先生と一緒にデモンストレーションをしていただきます。それでは、練習3分です。はじめ!

(各拠点での練習～3分経過)

はい、練習終了です。それでは、各地の代表の方々に、パトリツィア先生、タイソン先生と一緒に発表していただきます。横手市の皆さんから始めますので、代表の方はカメラの前に近寄ってください。そして、皆さん方の発表の時間は、

2分となりますので、こちらで終了、と言いましたら、お話の途中で終了して、次の会場に移させていただきます。

=====

◆拠点校とのやり取り

①秋田県横手市(会場:市立雄物川小学校)

横手市: Hello.

パトリツィア・ハヤシ先生: Hello.

横手市: My name is Shimizu Satoru. Please call me Shimizu-sensei.

パトリツィア・ハヤシ先生: I'm sorry, one more time please.

横手市: My name is Shimizu Satoru. Please call me Sensei.

パトリツィア・ハヤシ先生: Sensei.

横手市: Please call me Shimizu-sensei.

パトリツィア・ハヤシ先生: Shimizu-sensei, I understand. Please call me Patrizia.

横手市: Patrizia, nice to meet you.

パトリツィア・ハヤシ先生: Nice to meet you, too.

横手市: Where are you from?

パトリツィア・ハヤシ先生: I'm from America, I'm from California.

横手市: California. What food?

パトリツィア・ハヤシ先生: California has many foods, especially Mexican food.

横手市: Mexican foods. What food do you like?

パトリツィア・ハヤシ先生: I like, do you know fajitas, like a tacos. Do you know tacos?

Very popular. You should try.

横手市: Do you have school festivals in California?

パトリツィア・ハヤシ先生: In American school, not school festival, really. We have many events.

横手市: Many events.

(2分経過)

パトリツィア・ハヤシ先生: It was very good. You did very well, really, I think. A lot of good efforts to build rapport, I think. Very interesting conversation about food.

百瀬先生: 次に皿沼小の代表の先生、お願いします。

②東京都足立区(会場:区立皿沼小学校)

タイソン・ロード先生: Hello.

皿沼小: Hello. My name is KoichirOKashio.

タイソン・ロード先生: Nice.

皿沼小: Please call me Kashio.

タイソン・ロード先生: Kashio-sensei? OK, nice. My name is Tyson Rode, please call me Tyson. Nice to meet you.

皿沼小: Tyson. Nice to meet you. Where are you from?

タイソン・ロード先生: I'm from Canada, near Vancouver.

皿沼小: Vancouver. What sports do you like?

タイソン・ロード先生: Oh, I love sports! I like Judo, and I like Karate. My favorite sport is dodgeball.

皿沼小: Really? Dodgeball. Me, too. I like dodgeball. Oh yeah. How often do you play dodgeball?

タイソン・ロード先生：I like to play dodgeball at school. Can we play dodgeball at lunch time with your class?

皿沼小：Lunch time? Fun! What food do you like?

タイソン・ロード先生：Oh, food. I love all foods, especially Sushi.

皿沼小：Sushi, good. What sushi do you like the best?

タイソン・ロード先生：Oh, that's nice question. I love Salmon. Because in Canada, Salmon is very popular.

皿沼小：Popular food.

タイソン・ロード先生：Yeah. What is your favorite sushi?

皿沼小：I like Tuna. Thank you very much.

(2分経過)

タイソン・ロード先生：Nice job. Wonderful rapport. Nice smile, so friendly, and I want to play dodgeball and have sushi in your class, if we can. Thank you. Super job.

皿沼小：Thank you.

百瀬先生：それでは亀田小の先生、お願いします。

③東京都足立区(会場：区立亀田小学校)

亀田小：Hello.

パトリツィア・ハヤシ先生：Hello.

亀田小：Nice to meet you. I'm Mizuho OKa.

パトリツィア・ハヤシ先生：Nice to meet you, too.

亀田小：Please call me Mizuho.

パトリツィア・ハヤシ先生：OK, please call me Patrizia.

亀田小：Patrizia?

パトリツィア・ハヤシ先生：Yes. Thank you.

亀田小：Nice to meet you. Can I ask you a question?

パトリツィア・ハヤシ先生：Of course.

亀田小：Where are you from?

パトリツィア・ハヤシ先生：I'm from America.

亀田小：Oh, America. Nice.

パトリツィア・ハヤシ先生：Thank you. Have you been to America?

亀田小：Yes, I've been to New York once.

パトリツィア・ハヤシ先生：New York is a wonderful city.

亀田小：By the way, I like your cup? Eiffel tower?

パトリツィア・ハヤシ先生：Yes, I've visited last summer.

亀田小：Wow, nice. How was it?

パトリツィア・ハヤシ先生：It was beautiful. It was really wonderful. So exciting.

亀田小：Nice. Sounds great. How long did you stay in Paris?

パトリツィア・ハヤシ先生：I traveled in France ten days. So, three days in Paris. Do you like traveling?

亀田小：Yes, I do. I've been to France last one day.

(2分経過)

パトリツィア・ハヤシ先生：Wonderful. Very nice rapport. Very nice conversation.



百瀬先生：ありがとうございました。エッフェル塔に触れていただいて、素晴らしかったですね。

百瀬先生：最後に浦安市の先生お願いします。

④千葉県浦安市(会場：市立明海小学校)

タイソン・ロード先生：Hello.

浦安市：Hello. I'm Natsuki. Please call me Natsuki.

タイソン・ロード先生：OK, that's nice to meet you. My name is Tyson Rode and please call me Tyson.

浦安市：OK, Tyson. Where are you from?

タイソン・ロード先生：I'm from Singapore.

浦安市：Oh, you are from Singapore? I've never been to Singapore, but I love Singapore food. Very much.

I really want to go to Singapore.

タイソン・ロード先生：Oh, please. When you have a chance, please go. I'm very interested in Japanese culture, too.

浦安市：Really. What Japanese food do you like?

タイソン・ロード先生：I love all foods. Especially Sushi and Ramen. How about you? What food do you like?

浦安市：I like Ramen, too. I love Ramen. Have you ever traveled in Japan?

タイソン・ロード先生：No, a little bit. I've been just in TOKyo, and Osaka, but do you know any good place?

Where do you recommend?

浦安市：I really recommend Kyoto. If you like Japanese culture, you can enjoy Kyoto.

タイソン・ロード先生：I see. Kyoto is really nice place, I heard. Thank you for the recommendation.

浦安市：Yeah. So how long do you live in Japan?

タイソン・ロード先生：Only one year.

浦安市：One year. Do you speak Japanese?

タイソン・ロード先生：Yeah, just a little, 少し。Just a little bit. I want to study more.

浦安市：I will try to help you to study Japanese.

タイソン・ロード先生：Oh, yeah. That's nice. I'll teach you English, too.

(2分経過)

タイソン・ロード先生：Wow. That's a super rapport building. Great job. So friendly and I love the way you ask the question. Great job. Really wonderful.

百瀬先生：Yeah. 皆さん素晴らしいですね。

タイソン・ロード先生：Yeah, good job, everybody.

パトリツィア・ハヤシ先生：Really good.

百瀬先生：今日は英語がとてもお上手な小学校の先生ばかりお集まりになられているのでしょうか、素晴らしいですね。Right?

パトリツィア・ハヤシ先生、タイソン・ロード先生：Yeah. I think so. Really good. I'm happy.

百瀬先生：

皆さんのラポールビルディングは十分にできましたので、次に具体的なレッスンプランの説明に進んでみましょう。私たちが演じているビデオをしばらくご覧いただき、その中でどのような点に注意を払っているのかを、よくご覧ください。

(動画上映)

百瀬先生：

皆さん、いかがでしたでしょうか。皆さん英語がとてもお上手でしたので、今のレッスンプランの説明よりも、ずっとお上手にできるんじゃないかと思いますが、いくつか注意すべき点がありましたが、それは後ほど皆さんのモデルの中でお示しいただいたり、質疑応答の中で伺うことにして、ここでは、皆さんにすぐに練習をしていただきたいと思います。2点だけ注意をしたいところがあります。まず1点目は、私が先生、パトリツィア先生が「ダンスお上手よね」、という風に言ったのは、すでに彼女がダンスができるということを承知しているうえでの会話です。ALTさんを見てすぐに音楽好きよね、ダンスができるわよね、明るくて楽しいわよね、というようにステレオタイプの判断をするのは危険ですから、そこはぜひご注意ください。そして、今お見せしたレッスンプランの説明に続く本物のレッスンは、事前課題の中にモデル授業として納めてありますので、そちらをご覧ください。

それではまた会場ごとに、パートナーを見つけてALT役と学級担任役で、お配りしていますレッスンプランを使って、レッスンの説明をしてみてください。練習時間は4分ありますので、2分ごとに役割を交代して練習してみてください。4分経ったら、こちらからお声掛けします。それでは練習を始めてください。

(拠点校での「レッスンプランの説明」の練習)

百瀬先生：

はい、練習時間終了です。それでは、パトリツィア先生、タイソン先生と皆さん方がデモンストレーションをする番です。お一人の方のデモンストレーションの時間は2分です。最後までレッスンプランを説明できなくても構いません。ALT役は相づちを打ちます。それでは、浦安市の先生、お願いいたします。

=====

◆デモンストレーション

浦安市：Hello.

パトリツィア・ハヤシ先生：Hello.

浦安市：Today's lesson to learn the name of various Olympic and Paralympic sports.

パトリツィア・ハヤシ先生：OK, yes.

浦安市：Yes. What's an expression is baseball, volleyball, etc.

パトリツィア・ハヤシ先生：OK. I see.

浦安市：Time schedule. First, greeting, weather and day. I say, hello class. 「ハロークラス」って言ってください。

パトリツィア・ハヤシ先生：OK, so you do "Hello class" and I do, "Hello class", OK.

浦安市：Next students response, "Hello".

パトリツィア・ハヤシ先生：OK.

浦安市：Next, Small Talk. Theme is, "How was your weekend ? "

パトリツィア・ハヤシ先生：OK, how was your weekend ? I watch this.

浦安市：話します。I watch baseball game. What is your weekend ?

パトリツィア・ハヤシ先生：OK. It's good. You know, a little Japanese is OK. It's OK. It's feeling.

If you are friendly, and ALT they will be fine. It will be fine. So you did very well.

Very well, thank you.

タイソン・ロード先生：Yeah, great job !

パトリツィア・ハヤシ先生：Fantastic.

タイソン・ロード先生：That was nice.

(2分経過)

百瀬先生：それでは続いて、亀田小の先生、お願いいたします。

亀田小：Good morning.

タイソン・ロード先生：YHi, good morning.

亀田小：Tyson, ●●(音声途切れ) on the second period.

タイソン・ロード先生：OK, today's second period. Oh, thank you. I can I see.

亀田小：Here is my lesson plan.

タイソン・ロード先生：Thank you very much. It's a nice plan.

亀田小：Thank you. Today, I'd like to focus on the expression, I want to watch sports.

タイソン・ロード先生：Oh, I want to watch, it's great expression, OK. Thank you.

亀田小：I watch this lesson plan. Please read it.

タイソン・ロード先生：OK.

亀田小：procedure

タイソン・ロード先生：I see the procedure number 6, OK.

亀田小：I don't have much time today, now please read.

タイソン・ロード先生：I see, you are very busy, but thank you for the nice plan.

亀田小：Main ●●(音声途切れ), number five ●●(一部聞き取れず), can you dance?

タイソン・ロード先生：Yes, actually I like dancing. That's nice, thank you. I can dance, not very good,  
but I can dance.

亀田小：So, I'd like you to practice dancing active with students.

タイソン・ロード先生：OK, my pleasure. No problem. I got it.

亀田小：And number six, we do communication.

(2分経過)

タイソン・ロード先生：

Very nice. I really like, great job. I really like, you chose the very main point. So you went to for example, you went to write from the goal and you are moving to the main point was number five for ALT to be active. Great explanation and good rapport, too. Super!

百瀬先生：

素晴らしいですね。どこにフォーカスするかということにも触れていただきましたし、Can you dance? と、あらかじめ聞いていただいてから、ダンスしてくださいって依頼していただきました。素晴らしかったです。皿沼小の先生、お願いします。

皿沼小：Hello.

パトリツィア・ハヤシ先生：Hello.

皿沼小：My name is Hoshino Ayumi. Nice to meet you.

パトリツィア・ハヤシ先生：Nice to meet you. I'm Patrizia. Nice to meet you, too.

皿沼小：Today's lesson menu, general aims of this lesson: To learn the names of various Olympic and Paralympic sports and express what they want to watch.

パトリツィア・ハヤシ先生：Great,OK.

皿沼小：OK, thank you. I want to say, children baseball, table tennis, swimming, volleyball, fencing, Judo sports name.

パトリツィア・ハヤシ先生：OK, I got it.

皿沼小：And I want to say, "I want to watch baseball, I want to watch ~"

パトリツィア・ハヤシ先生：OK, I want to watch baseball, OK, I understand. That's good.

皿沼小：And question word: How about you?

パトリツィア・ハヤシ先生：OK.

皿沼小：Teaching...

パトリツィア・ハヤシ先生：Procedure.

皿沼小：Procedure, thank you.

パトリツィア・ハヤシ先生：Perfect, procedure.

皿沼小：Number two.

(2分経過)

パトリツィア・ハヤシ先生：I loved your gestures. Your great gestures, OK. Me, easy to understand.

Yes, perfect. Those are great communication.

タイソン・ロード先生：Definitely.

パトリツィア・ハヤシ先生：Gestures are really important. And smiling is wonderful. Seriously,

for communication. Great work.

皿沼小：Thank you very much.

タイソン・ロード先生：Great job. Super! Super!

百瀬先生：

先生方、素晴らしかったですね。ほんの一瞬で、お二人とALTとのラポールがすっかりでき上がりましたね。おそらく先生方に教わっている児童の皆さん、本当にハッピー、ハッピー。いいですね。横手の皆さん、お願いいたします。

横手市：Hello.

タイソン・ロード先生：Hello.

横手市：My name is Ken Takahashi.

タイソン・ロード先生：Oh, nice to meet you.

横手市：Please call me Ken.

タイソン・ロード先生：Ken, OK. Please call me Tyson.

横手市：OK, Mike Tyson. Boxing. I like boxing. OK. Please say teaching plan.

タイソン・ロード先生：Teaching plan, thank you.

横手市：First, Greeting and Weather. Let's check number1 Greeting and Weather.

タイソン・ロード先生：I see. Yes.

横手市：OK, you check the weather.

タイソン・ロード先生：OK, I check the weather with the students?

横手市：Yes.

タイソン・ロード先生：OK, I got it. Nice!

横手市：Next, number2 Small Talk.

タイソン・ロード先生：Small talk, OK.

横手市：OK. Let's check sports, how was your weekend.

タイソン・ロード先生：I got it, so how's your weekend and check the sports. OK.

横手市：OK, let's Small Talk, OK ?

タイソン・ロード先生：OK, I like Small Talk. Good one.

横手市：OK, Small talk, check. Next, number three. 目標導入、何だ？ えっと。Let's check sports flash cards.

タイソン・ロード先生：Sports flash cards, OK, great. Let's do it.

(2分経過)

タイソン・ロード先生：Very nice. You are very easy to understand. "Let's check number two, let's check number three." Very clear and great style. Excellent.

横手市：OK, thank you.

タイソン・ロード先生：Really good. That's was very useful, "let's check". I think that is great expression.

百瀬先生：

高橋先生の"let's check number two, number three"というように、レッスンプランの項目を指摘していただくのは、大変わかりやすかったです。

タイソン・ロード先生：Great, great.

百瀬先生：

そういった意味でも、レッスンプランのテンプレートを作っておきさえすれば、先生方が、ここ、ここ、という風に示しながら説明をしていくことができるので、たくさん説明の言葉を用意していなくても、ALTの先生に何の活動をするのか、何がポイントなのか、説明を上手くすることができますと思います。レッスンプランの空欄になっているテンプレートは、この事後課題の中にあげておきますので、ぜひ先生方もご活用ください。それでは、先生方とALTとの間にラポールが構築されて、楽しい雰囲気ができ上がりました。この楽しい雰囲気が、子供たちにも伝わっていきます。子供たちの気持ちをもっともっと上げていくために、楽しい活動の一つをご紹介します。今のレッスンプランの活動の中に出てきた活動です。それでは、皆さんも立ってください。

◆アクティビティ

百瀬先生：

そして、会場の皆さん、3, 4人で輪になれるように、周りの方とちょっとグループの確認をしていただけますか。それでは、まず最初に私たちが見本を示します。タイソン先生がリードします。

タイソン・ロード先生：OK. So we gonna have a nice rhythm let's practice with the rhythm.

Yeah. So, this rhythm, we need to have two reactions. So, let's repeat after me.

百瀬先生, パトリツィア・ハヤシ先生：OK.

タイソン・ロード先生：OK. Me, too.

百瀬先生, パトリツィア・ハヤシ先生：Me, too.

タイソン・ロード先生：Nice, one more time. Me, too.

百瀬先生, パトリツィア・ハヤシ先生：Me, too.

タイソン・ロード先生：Yeah, very good. I like it. And one more reaction. I don't.

百瀬先生, パトリツィア・ハヤシ先生：I don't.

タイソン・ロード先生：One more. I don't.

百瀬先生, パトリツィア・ハヤシ先生：I don't.

タイソン・ロード先生：OK, nice reaction. So, please watch us and we will show you. Watch us. Music start.

(音楽が流れる：デモンストレーション)

タイソン・ロード先生：So rhythm, rhythm, rhythm, all right. OK, I want to watch. I want to watch Judo.

How about you ?

百瀬先生：I want to watch volleyball. How about you?

パトリツィア・ハヤシ先生：I want to watch swimming. How about you ?

タイソン・ロード先生：I want to watch dodgeball.

3人：Me, too!

タイソン・ロード先生：I think you are the champion.

百瀬先生：You are the champion. 最初に “Me, too.”と言った人がチャンピオンなんですね。

タイソン・ロード先生：We gonna try this time, it’s your turn. Who can go first? “Me too”.

パトリツィア・ハヤシ先生：“Me too” reaction.

タイソン・ロード先生：I want to watch, how about you? I want to watch, how about you ?

パトリツィア・ハヤシ先生：I want to watch, how about you?

タイソン・ロード先生：Music stop, “Me, too”!

パトリツィア・ハヤシ先生：Ready?

タイソン・ロード先生：Ready, music starts. Let’s go.

(音楽が流れる：拠点校にて各グループ活動)

タイソン・ロード先生：Yeah, nice, nice. That was nice. Yeah. So now, we gonna do number two. Round two is “I don’t”. OK? Here we go. Music starts, let’s go.

(音楽が流れる：拠点校にて各グループ活動)

タイソン・ロード先生：Nice. Wonderful rhythm, good job, guys.

パトリツィア・ハヤシ先生：Fantastic. You guys have a lot of energy.

タイソン・ロード先生：Fantastic.

百瀬先生：

これで、今日の活動は全て終わりました。こういう楽しい気持ちが子供たちに伝われば、英語って楽しいんだな、ALTの先生と話してみたいな、そのためにはもっと言葉が知りたいなと思うようになります。学びに向かう力がつきますね。先生方がぜひALTの先生と助け合って、学び合って、活動する姿を児童の皆さんに見せてください。

それではここからは、会場の皆さん方からの質問をいただく時間になります。よろしく願いいたします。

=====  
配信スタッフ：

それでは、今回は浦安市の方からご質問を受けたいと思います。お願いいたします。

浦安市：

今日はありがとうございました。浦安市の明海小学校では、英語の研究をしています。明日ちょうど授業をやらなくてはいけなくて、ALTとの役割を詳しく教えていただいて、とても参考になりました。一つ質問があるのですが、なかなかALTとミーティングができずに、授業の直前でやる事が多くて、充実した授業ができるのか少し不安があります。なので、このようなプランを立てるのがすごく大事なのですが、全部作るとやはり時間がかかってしまうので、キーセンテンスとかだけでも伝えられるようにしていけたら、ALTの方ともしっかりコミュニケーションが取れるかと思うので、どこを伝えればいいのかを教えてください。キーワードやキーセンテンスなどあったら教えてください。

百瀬先生：

おそらく大事なのは、今日のモデルの中でも示したのですが、どこをALTの先生にリードしてもらいたいのか、ということをお日本人の先生の方で決めておかれる方がいいと思うんですね。そして、「この活動はあなたが先に発問して、リードして」、というような指示を明確にすればいいと思います。そして依頼するときには、まだ親しくなる前であれば、“Could you ~?”という表現が使われるのが一番無難だと思います。タイソン先生とやってみますが、Tyson-sensei, could

you read this activity ?

タイソン・ロード先生：OK. This one ?

百瀬先生：Yes.

タイソン・ロード先生：Yes, my pleasure.

百瀬先生：Yes, please. Then, I will follow you.

タイソン・ロード先生：I see. OK, this one, I read, OK.

百瀬先生：Then, next activity I speak first.

タイソン・ロード先生：I see.

百瀬先生：Listen and follow me.

タイソン・ロード先生：OK, no problem.

百瀬先生：

表現だけのことでなくて、「準備に時間がないので」ということも含めると、例えばテンプレートに、指示のキーワードだけ書いておいていただいて。タイソン先生、メッセージカードのいいプランがありましたね。So, you have an experience of having a message card from Japanese teacher, right?

タイソン・ロード先生：

Yes, so teachers are very very busy, right? If you are making a plan, sometimes it's difficult, right? So sometimes teachers just gave me a message card. Two or three sentences. "Please follow me." "Please read this.", very very short message card. That's enough. That's great.

百瀬先生：

このティーチングプランに添えて、例えば1と3はタイソン先生、2と4は百瀬、なんて指示を書いておいてもらった経験があるそうです。回答になりましたか。

浦安市：ありがとうございます。

タイソン・ロード先生：It's great question.

パトリツィア・ハヤシ先生：Good luck tomorrow.

配信スタッフ：続いて亀田小学校の方いらっしゃいますでしょうか？

亀田小：

今日はありがとうございました。最後にやっていただいた、ヒップホップビートの練習、とても楽しかったです。Me, tooとか、I don't というところですが、例えば3回目に自分の意見を言うような活動をして大丈夫でしょうか？ あと、他にどのようなゲームがあるかを教えていただけると助かります。

百瀬先生：

自分の考えを言わせるというのは一番大事ですよ。ですから、例えば I want to watch Judo, how about you? ときたら、I want to watch Volleyball. と自分の考えを言わせるようにすればいいと思うんですが、それはアレンジしていただくと思います。事後課題の中に、自分の考えを言ったりする活動（私どもの学生がモデルを示したものを）を3つ入れてありますので、事後課題の方でもご確認いただけます。

亀田小：ありがとうございました。Thank you.

3人：You are welcome.

配信スタッフ：続きまして、皿沼小学校の方お願いします。

皿沼小：

今日はありがとうございました。ALTの方との信頼関係を築くことの大切さとか、コミュニケーションの取り方について、

とてもわかりやすく教えていただきました。1つ質問ですが、ALTの方が授業を臨むにあたって、これだけは知りたいなということがあれば、教えていただきたいなと思います。

百瀬先生：Do you understand? As an ALT, do you have anything special that you want to know before the class?

タイソン・ロード先生：That's a great question. Anything special we want to know.

百瀬先生：Confirm.

タイソン・ロード先生：

No, I think that you want to know your role. So it's kind of general. You want to know what part we should do. T1 is the main. Now so I think we want to know the part. You say, "Could you please do this?" "Could you please do that?", it's very helpful.

百瀬先生：

T1としての立場は担任の先生にあるということをよくわきまえているALTの場合には、自分は何の役割を演じていいのかわからないので、授業中にCould you ~? を使って伝えてもらえるとういと思います。もちろん、打ち合わせの時に指定していただくといいと思いますが、授業中にも、「あ、ここは先生やってよ」、という時には、Could you please do this?

タイソン・ロード先生：

For example, when you are in an activity, you can say, "Tyson, please join the students." then I feel I know what to do. We just don't stand right?

百瀬先生：

生徒の中に混じっていいのかどうか、指示を待たなければならない場合もありますので、担任の先生の方から簡単な指示を出してください。Tyson, please join the students.

タイソン・ロード先生：Nice, OK.

百瀬先生：とか、“Please be a partner for 何々さん”

タイソン・ロード先生：Sure.

百瀬先生：

このような具体的な指示をしていただくのが、一番いいそうです。最近のALTの先生方は、よく自分の立場をわきまえてくれるので、指示がないことを自分がしてはいけないと思われる方が多いように思いますが。逆に指示が無くても、先に動かれてしまうことで、先生方が困らているような場合もありますか?

皿沼小：ないです。

百瀬先生：よかったです。

タイソン・ロード先生：

I think when a teacher gives a clear instruction, short is OK, please do this, please join this, it makes ALT very happy. So, we know what to do.

パトリツィア・ハヤシ先生：Especially young teachers and new teachers don't know.

百瀬先生：

特に経験のないALTさんには、具体的な指示をぜひお願いします。その時の指示の英語は、今日は私も努めて活動の中で言いましたが、How many years in Japan? など動詞を抜いても通じますので、先生方は臆せず、単語レベルでお話しいただければいいと思います。

皿沼小：ありがとうございます。

配信スタッフ：それでは最後に、横手市の方、お願いいたします。



横手市：

よろしくお願ひします。3年生の学級担任をしているんですけど、子供たちがすごくALTの先生になつていて、いろいろなことを質問したがるんですね。例えば、年齢のことはあまり外国の方は聞かれると嫌だとか聞いたことがあるのですが、そういう質問だとか、結婚しているの？とか、そういうプライベートなことは、やはり外国の方は日本の方と少し感覚が違うかもしれないと、どういふ質問はあまりしてはいけないとか、そういう指導はした方がいいのでしょうか？

百瀬先生：

本当ですね。子供さんたちは正直に聞いてしまうので、それは中学生も高校生もまず、Do you have a boyfriend? っつて、必ず聞かれるわよね、っつて笑い話になっています。それは、文化の違いとして、いくら小さいお子さんでも、「結婚しているの?」「ボーイフレンドはいるの?」「ガールフレンドはいるの?」という質問はしないようにしましょうね、と教えていただいた方がいいと思うんですけど、先生たち、どう思いますか? What do you think about this?

タイソン・ロード先生：From kids, from children, I think we don't mind so much.

パトリツィア・ハヤシ先生：

But I think it can also make uncomfortable. You don't know how to answer, you feel, sometimes.

タイソン・ロード先生：

When I say, please ask me how old I am. I'll say, just you can say, ALT can say, it's secret. That's what I say. It's secret.

百瀬先生：少し、やってみます。先生、いくつ？

タイソン・ロード先生：Oh, secret!

百瀬先生：

このように、手慣れたALTさんは逃げの技をもっていられちゃいますが、特に日本に來日して間もない方たちは、困るかもしれません。ただ、私もJETプログラムで、來日直後のALTの指導を担当していましたが、このことに関しては、国の方でも大きめ細かく、日本ではこういう質問がよく出てきます、ということで話しています。子供たちの質問からは、特に小さい子供には上手く対処してやってください。それから年齢が上がって、高校生などには、文化を教えてください、というような指導が、來日直後プログラムではかなり綿密にされています。ですから、JETプログラムの方たちはよくわかっていると思います。

横手市：ありがとうございます。

百瀬先生：

それでは皆さん、今日は本当にありがとうございました。私たちも楽しみながら、皆さんとの時間を過ごすことができました。これを機会に小学校英語教育について、私たちも研鑽を深めて、また皆さんと一緒にできる日があるように、楽しみにしています。

パトリツィア・ハヤシ先生：

Thank you very much for joining us today. We had a wonderful time working with you and we really hope we get a chance again, so thank you.

タイソン・ロード先生：

That was a lot of fun, I really enjoyed that. And you did a wonderful rapport building. I'd like the three of us to give a round of applause to you.

パトリツィア・ハヤシ先生：Thank you.

百瀬先生：Let's say everyone, じゃあ皆さんも一緒に。See you.

3人：See you.